

2009年度下半期 商社の環境保全活動

当会法人正会員（42社）が、社会貢献活動や国民運動につながる啓発活動の一環として、また、日常業務の中で、取り組んでいる環境保全活動の概要を、各社資料より、とりまとめた。

また、各社へアンケートしたところ（回答20社）、一般の方々を対象とする環境問題への理解促進を図るセミナー、講座等の開催件数は計34件、社内（本社およびグループ会社社員）を対象とする事業が計79件となった。また、地域における環境保全活動のうち、緑化・生態系保全運動については、主催事業が計21件、協力事業が計10件、美化運動の主催事業が計14件、協力事業が37件となった。リサイクル運動は多くの会員企業で実施されている。

1. 環境問題への理解促進

住友商事 ハノイ国民経済大学環境講座

2009年11月10日、ハノイ国民経済大学で、地球環境問題をめぐる国際的動向や企業の環境対応等について講義を行い、学生等約150名が参加した。

当社は、ベトナムにおける社会貢献活動の一環として、次世代を担う人材の育成に貢献していくため、2008年に、教育訓練省、ベトナム商工会議所の協力を得て、ハノイ国民経済大学に当社冠講座を開設した。その一環として、環境をテーマに講座を開催したものである。急速な経済成長を遂げつつある同国においても環境問題への対応は重要な課題の1つと位置付けられており、講座では活発な議論が行われた。

岩谷産業 第4回イワタニ水素エネルギーフォーラム東京

2010年1月27日、東京国際フォーラムにおいて、「水素と電力との共生をめざして」をテーマに開催し、民間企業、大学、行政、NPOから311名が参加した。経済産業省資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部新エネルギー対策課長 渡邊昇治氏から来賓挨拶の後、地球環境産業技術研究機構副理事長 茅陽一氏から「温暖化への対応と今後のエネルギー」につき基調講演をいただき、続いて、ガス、電力、自動車の各分野の専門家による特別講演が行われた。

本事業は、水素エネルギー社会の早期実現に向けて普及の機運を盛り上げ、ネットワークづくりの場を提供することを目的に、2006年度から開催している。フォーラムを通じて、

産官学のさまざまな専門分野から提言を得ながら、水素にかかわるネットワークをさらに強固に築いていきたい。

伊藤忠商事 地球環境経営推進セミナー

2010年3月19日、東京本社で、東京大学総長顧問、三菱総合研究所理事長 小宮山宏氏に、「21世紀における日本のあるべき姿～新産業を創出する環境への取り組み～」をテーマに講演いただき、本社・グループ会社および取引先社員等377名が参加した。

本事業は、地球環境問題を取り巻く世の中の変化とビジネスチャンスとの関係について情報発信し、グループの環境経営を推進することを目的に開催しており、今後も同様のセミナーを開催していくことで環境保全活動に貢献していきたい。

丸紅 環境落語会

2009年11月16日、東京本社で、落語家 林家うん平氏から、「江戸の環境リサイクル～もったいない精神を見直そう～」を演題とする講演と落語を披露いただき、本社・グループ会社社員81名が参加した。

本事業は、2009年度環境意識向上キャンペーンの一環として、江戸のリサイクル文化を題材に、環境を楽しく学んでもらうことを目的として開催した。

参加者からは、日本人の環境に優しい生活の知恵に感心した、などの感想があった。今後も、社員の一層の環境意識向上のための施策を実施していきたい。



第1回豊田通商グループ環境賞授与式
(豊田通商提供)

豊田通商 第1回環境賞

2009年11月27日、豊田通商グループ会社65社より100名が参加し、第1回環境賞授与式を行い、5社を環境保全優秀会社として表彰した。

グループの環境保全活動を報告する地球環境連絡会では、2009年度から、環境保全活動のさらなる推進のため環境賞を設け、このような活動に積極的に取り組むグループ会社の表彰を行った。表彰式では、受賞各社から取り組み事例の紹介があり、グループ会社間で、情報共有を行った。豊田通商グループとして今後もより一層、環境保全・改善活動を推進していきたい。

双日 eco検定奨励

2009年12月20日に実施された第7回eco検定（東京商工会議所主催）において、合格した役職員に対し、受験料相当額を返還することで奨励し12名が合格した。

本事業は環境啓発活動の一環として実施した。環境問題の基礎知識や時事問題を身に付

けることで、役職員一人一人の環境に対する意識の醸成を図ることを目的としている。また、より多くの役職員が知識・意識を持つことで、環境ビジネスにおける新しいアイデアを生み出す、環境関連法規制への対応力が高まる等の影響が期待できる。次回は奨励方法を図書券贈呈として、対象をグループ会社に拡大する予定である。

2. 地域における環境保全活動

(1) 主催

日立ハイテクノロジーズ「日立ハイテクやさとの森」植林活動

2009年10月24日、関東地区の当社事業拠点・グループ会社社員・家族96名が、茨城森林管理署、芳賀地区森林組合の協力の下、日立ハイテクやさとの森（茨城県石岡市）で下草刈りの後、森林管理署から、森の自然に関する講義を受けた。

本事業は、企業の環境保全への取り組みがより一層、求められる中で、地球市民としての地球温暖化防止への貢献、社員および家族への森林体験を通じた心身の癒しの提供、社員および家族の懇親や地域との交流推進を目的に、企業の環境社会貢献活動の象徴的活動としてスタートした。

林野庁の法人の森制度を活用し、2005年に、国有林の一角に2.3haの土地を借り受けて、ヒノキ等の苗木5,600本を植樹し、60年にわたって森を育てる活動を始め、現在は、年2回、下草刈りを行っている。下草刈りの作業、環境保全に関する講義や環境クイズを

通じて、山や樹木等の森林保全の大切さや温暖化防止への貢献について理解を深めたと考えている。

メタルワン 第13回メタルワン東京本社環境ボランティア

2009年10月24日、東京本社および近隣のグループ会社社員・家族93名が、江ノ島・片瀬東浜海岸の清掃の後、NPO法人日本渚の美術協会の指導者により、海浜収集物を利用した工作を行った。

本事業は、企業理念にうたわれる地球市民を具現化する活動と位置付けられ、自然環境の復元、循環型社会の建設、環境教育、社会奉仕活動への参画など社会・環境貢献活動を実現するものとして展開している。

参加者を通じて、環境意識を社会に広めていくことに寄与し、また、海浜収集物を利用した工作教室を通じて、世の中には無駄なものなど何一つないことを学習いただいたと考えている。これまでは、環境教育・啓蒙^{けいもう}という色彩の強い活動を行ってきたが、今後は、地球環境の改善に直接的に有効な活動を行っていくことを検討していきたい。

三井物産 谷津田再生プロジェクト

2009年10月24日、2010年1月16日、3月6日の3回にわたって、本社・グループ会社社員・家族133名が、三井物産環境基金助成先のNPO法人アサザ基金と協働し、谷津田（茨城県牛久市）で、稲刈り、酒仕込み、新酒の蔵出しとともに、生物調査、ワラの堆肥^{たいひ}づく

り等を行った。

本事業は、耕作放棄によって荒廃した水田を復元し、米作りを通じて生態系を回復するとともに、社員の環境意識の向上を図るため2007年度から取り組んでいる活動である。

下半期は、従来の活動に加え、アキアカネの産卵場所づくり、次年度の冬季湛水に向けたあぜの補修等も行い、水田の乾田化の普及により、減少した生き物の生息環境を整備した。これらは、生き物の生息環境の再生から一歩踏み込んだ積極的な生息環境づくりといえる。また、水田緑肥としてレンゲの播種^{はしゅ}も行った。

三菱商事「三菱商事 千年の森」森林保全活動

2009年11月27－29日、本社・グループ会社社員38名が、高知県、安芸市、安芸市森林組合の協力の下、「三菱商事 千年の森」（高知県安芸市。通称「彌太郎の森」）で、間伐作業を行うとともに、森林の機能等について学習した。

2009年2月に、高知県が推進する「環境先進企業との協働の森づくり」に賛同し、高知県、安芸市、安芸市森林組合と森林保全パートナーズ協定を締結した。三菱グループの創業者 岩崎彌太郎の生誕地である安芸市の山林を社有林として保有し、また、市有林の一部を含めた212haを「三菱商事 千年の森」と名付け、水源涵養^{かんよう}等の森林の公益機能増進のための森林保全活動を行うとともに、社員や地域住民の自然体験学習やボランティア活動、環境教育の場として活用している。今回



三菱商事千年の森（三菱商事提供）

は、社員ボランティアによる初めての森林保全活動となったが、環境問題や森林保全に関する理解を深める機会となった。

(2) 協賛

興和 第10回ゆうわ・フェスタ・41に協賛

2009年9月20日、国道41号線周辺地域の安全と環境をよくする会が主催し、あいち自動車学校（名古屋市）で行われた名古屋市北区地域交流会に協賛し、名古屋工場社員12名が、会場周辺道路の清掃、花の苗木の無償配布等を行った。

苗木ポットの無償配布は大変好評で、地域の緑化に資するものとなった。また、PE袋も好評で、足りなくなるほどであり、当社製品の宣伝ともなったが、今後もこのような環境にやさしい素材の普及に努めていきたい。

また、このような町の美化運動、地球温暖化防止のためのエコライフの普及等、エコライフの啓発等も推進する地域の事業に協賛することで、地域の住民と共に環境問題に取り組んでいきたい。

長瀬産業 中央区グリーンアッププロジェクトに参画

2009年10月4日、中央区社会貢献企業連絡会 中央ぶらねっとが主催する、中央区晴海第三公園におけるツツジ760株の植栽、除草に、東京本社社員10名が参加した。

同連絡会は、中央区社会福祉協議会が事務局となり、中央区を活動のフィールドとする有志企業等により1994年に発足し、地域と共に歩むことをコンセプトに、社会貢献活動および地域交流を推進しており、当社は2009年度に加入した。今回、当社は幹事を務めたが、中央区に勤務する社員の地域貢献、環境保全活動への参加者を、今後、拡大させていきたい。

3. 環境製品・システムの普及

兼松 京都府の電気自動車等普及促進計画を支援

京都府が推進する電気自動車等普及促進計画の支援の一環として、2010年3月15日、京都府、京都府総合見本市会館等と協定を締結し、急速充電器2基を京都市内に設置し、運用している。また、産学官民が連携・協力して充電インフラの普及を図る京都府次世代自動車パートナーシップ倶楽部に参加し、EV（電気自動車）タクシー・レンタカーによる京都観光パッケージの開発を通じたEVおよび充電インフラの普及促進を図るワーキンググループ（WG）を立ち上げた。

同WGは、多分野にわたる参加企業が得意分野を持ち寄って連携することで、EV・充電器・通信ネットワークシステム等のインフラ整備を、タクシー・レンタカー事業者な

どEVの需要家、さらには最終利用者である観光客の視点も取り入れながら包括的に進めていく。WG参加企業との連携を進め、歴史ある世界の文化観光都市、かつ議定書締結の地でもある京都での実証事業を皮切りに、EV・充電インフラを活用したさらなるビジネスモデルの構築を目指すと同時に、EV・PHV（プラグインハイブリッド車）の普及をさまざまな角度からサポートし、地球温暖化対策の一助となる事業を進めていきたい。

ユアサ商事 会社設立90周年記念事業カーボンオフセット

2009年4月～2010年3月に、自社オフィス（8支社、25支店・営業所）、自社展示会「グランドフェア2009」（5拠点を開催）、および同展示会主催社（有志）における電力使用に伴うCO₂排出量計1,776tを、カーボンオフセットした。なお、排出権は、ブラジルサンパウロ州亜酸化窒素排出削減CDM事業、中国浙江省巨公司HF23分解CDM事業から調達した。

本事業は、会社設立90周年記念事業として実施した活動であり、上記以外にも、長年の取引先1社1t分（合計1,817t分）の排出権を、2009年8月に、カーボンオフセットした。各企業からは、社内でカーボンオフセットに対する理解が高まった、当社の環境事業に対する考え方に共感した、との声を頂いた。

本事業をきっかけに、「カーボンオフセット」や「国内クレジット制度」など最新の省エネ手法の普及に努め、事業を通じた温室効果ガス削減活動を推進していきたい。

JFE